

令和6年度兵庫県景気動向懇話会結果について

- 1 日 時 令和7年3月4日(火) 10:00~11:45
- 2 場 所 神戸市教育会館 501 会議室
- 3 出席者 アドバイザリー・スタッフ 入江 啓彰 (近畿大学短期大学部商経科教授)
豊原 法彦 (関西学院大学経済学部教授)
長町 理恵子 (追手門学院大学経済学部准教授)
堀井 誠 (日本銀行神戸支店営業課長)
三井 栄 (岐阜大学社会システム経営学環教授)
- ※五十音順
- 事務局 企画部統計課長 外6名
産業労働部地域経済課経済・雇用政策班主幹

4 議事

(1) 兵庫県または関西経済の現状・見通し

【 要旨 】

各府県 CI 一致指数の状況

- ・ 最近の全国の CI 一致指数と、各府県が公表している CI 一致指数とを並べて見ると、近畿地方各府県は全国よりも総じて下回って見える。
- ・ CI は各府県で採用指標が異なるため、単純な比較はできないのかもしれないが、このような背景により今回の議題を設定した。

兵庫県 CLI による現状分析と wavelet 分析による CLI 先行性の検討

- ・ 兵庫 CLI では、他の府県と比べても悪い方向に出ているが、在庫率指数の悪化（自動車認証不正問題）が影響を与えている。ただ、2024年9月には金利の引き上げ影響か、一度上昇している。
- ・ 兵庫 CLI は今後も悪化する可能性があるが、一方で関西万博が織り込まれていない状態の数値であるため、万博の影響により改善する可能性もある。
- ・ 時系列変化から見ると、2022年5~11月で山、2024年1~3月で谷、2024年7~10月に再び山のような動きとなっている。
- ・ 兵庫 CLI と CI 一致指数との wavelet 分析（コヒーレンシー）では、2020年のコロナ禍以降、7ヶ月程兵庫 CLI の方が先行性を持つことが分かった。

関西経済の現況と見通し

- ・ 消費者センチメントとしては、物価上昇等によりコロナ5類以降後で最低水準。
- ・ 輸出も中国経済の減速により伸び悩んでいるが、一方で ASEAN 向けの輸出は伸びており、関西の輸出の牽引役が今後変わる可能性がある。
- ・ 大阪と京都ではオーバーツーリズム気味だが、兵庫県では百貨店販売額の伸び悩みなど、インバウンドの弱さが表れている。
- ・ APIR（一般財団法人アジア太平洋研究所）としては、関西の実質経済成長率を2025

年度+1.0%（国+1.2%）、2026年度+1.3%（+国1.3%）と予測。

- ・ 万博の経済波及効果は、兵庫県722億円と見込むが、これは単体での効果であり、観光客が隣県を周遊（拡張万博）すれば、更なる追加効果額が発生する。

【 質疑応答、意見 】

- ・ 各府県が公表しているCI一致指数から「近畿が全国よりも総じて下回って見える」という話があったが、各府県で採用している指標が異なっているという影響が大きい。全国一律の採用指標を使う方法を研究しているが、それにより算出した結果では、2023年平均で見て全国111.1に対して兵庫県107.6、大阪府130、京都118、奈良県100となった。日銀短観との相関も一定程度見られているので、関西一律に悪いと言うわけではないと考える。後日、最新の算出結果を提供する。
- ・ 各府県で比較したいのなら、内閣府が公表しているRDEI（地域別支出総合指数）を使う方法もある。
- ・ 兵庫CLIについて、2024年9月の部分で「金利の引き上げの影響」の話があったが、今のところ住宅投資等において大きな影響が出ているとの話は聞いていない。一方、資金の借り手にとっては、金利が上がる＝返済負担が増えることになるため、今後影響が出てくることも想定される。

例えば、住宅投資の場合、先々金利が上がるならば今のうちに建てようとする人と、現状コスト高に鑑みて、建てるのを止めようとするような両方の動きがある。このため、これからもう一段金利が上がる場合は、景気下押しのインパクトをしっかりとみていく必要がある。
- ・ 兵庫CLIのwavelet分析（コヒーレンシー）について、先行指数の先行月数が3とか7とかあるが、先行指数がその分先を見られるようになっているということか。

⇒ 例えば2024年の3月という瞬間で、CI一致指数と兵庫CLI（先行指数）とを比較すると、兵庫CLIの方が少し先のことを捉えているということになる。

これはCI一致指数と、兵庫CLIの相関係数を、1月ずつずらしながら求めた結果で判断している。今現在のCI一致指数に対して少し前、もっと前の兵庫CLIがどう影響を与えるか、ラグを順番に取っていく形。
- ・ APIRの資料では、実質民間最終消費支出が2024年度+0.8%、2025年度+1.4%と、賃金の上昇に伴って上がる形となっているが、今後もそれが続いていくと見受けられるか。

⇒ 物価の影響を取り除いた実質賃金では、2024年度+0.0%だが、2025年度+0.1%、2026年度+0.4%と、非常に緩やかではあるが、ずっとマイナスが続いていたところからようやくプラスになっていく。

こういうところが消費の伸びの予測結果に反映されている。

(2) その他、意見交換

- ・ 企業からのヒアリング結果として、人手不足に対応するため、外国人の採用にも力

を入れている企業があると記載されていた。兵庫県として、外国人採用をどれぐらい見込むのかという見通しはあるのか。

また、男女格差を減らし、女性の生産性を上げるというような議論はなされているのか。

⇒ 企業ヒアリングでは、外国人受入の体制づくりや生活面のサポートなど、コストの問題を含め、積極的ではない企業もある一方、関連企業が海外にあるような企業では、人事交流という形で高度な知識を持つ技術者を受け入れているところもあり様々かと思う。なお、県では外国人の就職・定着促進のため、新たに来年度当初予算で、外国人雇用企業の認定制度を創設する。

また、女性活躍の点では、従来から神戸市と共同で女性活躍に積極的に取り組んでいる企業をミモザ企業として認定している。

- ・ 女性の就業率で言えば、高卒の若年層がとても低い。女性も5割以上が大学へ進学する中、高校卒業のときの就業支援が以前ほどではないという印象を受けているが、何か知っていることがあれば教えていただきたい。関西の場合、女性雇用者に占める大卒の割合は約3割弱だが、高卒は約36%で、高卒の割合の方が高い。

⇒ 高卒人材について、大手製造業の工場では、従来からの関係性の中で地元の工業高校等から一定の採用を続けていたが、コロナ禍で採用を大きく抑えたため、高校との関係性が途絶えてしまい、コロナ禍が過ぎ人手不足の中、一度切れた縁を回復させるのが難しく、遠隔地の高校から採用しているといった話も伺った。

また、進学率が上がる中、大卒の採用は充足しているのに、高卒の採用が難しくなっているとの声も聞かれた。

- ・ 地域によって、景気の反応にもタイムラグみたいなのがある。関西の中でも大阪が先行して、それにつられて周りの県の景気が変動するというように。

同じことは兵庫県の中でも言える。神戸、播磨地域、日本海側では地域性も産業構造も違う。兵庫県としてマクロ的にとらえることも重要だが、兵庫県は地域別の統計データも公表されているので、それらをつぶさに見ていけば、地域別の違いが出るのかなと考える。

- ・ 兵庫県の企業は中国経済の影響を非常に受けやすいと言われるが、具体的にどの経済指標に基づいてそれが言えるのかというと、神戸港の輸出額ぐらいしかないように思われる。それ以外の経済指標やデータがあるのならば教えていただきたい。

⇒ その輸出額の統計と、出入国管理統計。そこで国籍別に見られるので、その2つで中国との関係を捉えることができる。

中国人観光客の回復は遅かったが、足元12月単月で関空から入ってきた外国人客数が88.5万人。国籍別（11月）を見ると、韓国が21.8万人、中国が21.3万人で、ようやく韓国と中国が並ぶような形になった。

⇒ 貿易統計および観光庁の宿泊統計等をみている。先ほど兵庫県の百貨店の売り上げが伸び悩んでいるとの話があったが、訪日外国人客の所得階層が広がってきており、高額品を買うポテンシャルが少し下がっていることが下押しに影響して

いる面もあると聞いている。物を買うだけでなく、コト消費の拡大を促す努力も必要。

(3) CI 一致系列の新指標候補について

【 要旨 】

- ・ 2023 年度に福井県が、総務省の地方統計機構支援事業により、CI 一致系列の指標見直しを実施。
- ・ 兵庫県でも、福井県の見直しに倣い、類似指標のパフォーマンスを検証してみた。具体的には、小売 6 業態計販売額、第 3 次産業活動指数、所定外労働時間指数。
- ・ 3 指標ともパフォーマンスは悪くないが、データ量が少ない (20 年間分または 4 循環分に満たない) ため、今後もデータを継続的に蓄積しつつ、定期的にパフォーマンスを検証し、必要が生じれば指標の入れ替えを検討する。